

講義名	証券論【ユニティ特別 火6限】			
担当教員	福田 司文			
開講期・曜日・時限	後期集中 その他 その他	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考
主題と概要				
現代の証券市場を構成する株式と債券を中心に証券取引の仕組みと証券投資の問題を講義する。証券取引の仕組みは証券の制度面について理解を深めることを目的とし、証券投資は株式や債券を購入する際にどのような点に注目すべきかに、また、株式、債券の評価、分析が重要である点を主に講義する。この2側面について統一的な理解が得られるよう基礎概念を中心に講義する。				
到達目標				
(1)企業における株式の役割が理解できるようになる。 (2)株式が取引される仕組みが理解できるようになる。 (3)債権を担う証券の性質が理解できるようになる。 (4)証券を売買する際に参考にすべき指標について理解できるようになる。				
提出課題				
復習クイズを適宜課する。授業中に課題を課す場合も、宿題にする場合もある。				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
復習クイズは採点、返却する。返却を通じて自己の理解レベルを確認してください。				
評価の基準				
対面授業を実施する場合は、期末試験50%、復習クイズ、宿題課題で50%。				
履修にあたっての注意・助言他				
出席を怠らないように。 ユニティ科目ですので、授業は本学では行われません、履修する場合は注意してください。				

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
配付資料によって授業を進める。				
参考図書 神原・城下・姜・福田・岡村、『入門証券論』、有斐閣。 川北、『テキスト株式・債券投資』、中央経済社。				
授業計画				
1. 導入：証券の役割 2. 経済活動と金融システム 3. 株式の種類、株式売買 4. 株式 上場制度、特約的な取引（1） 5. 株式 上場制度、特約的な取引（2） 6. 株式の種類と様々な発行方法 7. 財務諸表 8. 財務諸表と投資尺度 9. 株式のリスク 10. 株価の予測 効率的市場仮説の周辺 11. 株価の予測 伝統的な株価予測 12. 債券投資 13. 投資信託の仕組み 14. 投資信託 種類、考え方 15. まとめ 以上は予定の内容である。受講生の理解力によっては内容を変更する可能性もあることも了承してほしい。一つのトピックスを複数回に分けて授業するので、全部カバーできないかもしれない。				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
重点は復習に置きます。 授業内容の理解を確認するために、練習問題等を課し、復習してもらおう。 1回の授業に対して4時間の予習・復習と等を行ってください。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
経営学科共通のDPとの関係 資産運用業界に動向について理解できるようなる。14回の投資信託で言及する。 会計コース 目標(3)を達成することでDP、財務諸表の情報を分析できるようなる。 目標(1)、(2)、(4)を達成することで財務上の戦略構築に貢献できる。 現代経済コース 現代社会の金融的側面からの社会的諸問題を考察することができるようになる。授業計画2回～5回の株式売買、取引方法、株式種類、発行方法で諸問題に言及する。 到達目標(1)～(4)を達成することで、現代社会の金融面が抱える問題を理解し、自分なりの改善策を提案することができる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、シラバスが変更されることがあります。				